

「初期ラジオ放送文化関係資料集」

濱 生 快 彦

20世紀を特徴づける重要な言葉の一つに「メディア」がある。とりわけマスメディアは、政治、経済、芸術、消費といった様々な分野に大きな影響を与えてきた。映画、電話、ラジオ、TV、広告、コンピュータネットワーク、これらのメディアを通じて社会を分析するという試みは、特に珍しいものではないが、後世の歴史家達もまた「メディア」を手がかりに20世紀をとらえたいという誘惑から逃れられないだろう。

どのメディアにも、それが物珍しい時期があった。近年のパソコンの普及も、一面においてはインターネット利用の物珍しさが作用してのことだろう。メディアは変遷する。技術の進展が機能を向上させ、私たちの感性の変化が利用の方法を変える。それぞれのメディアは、独自の歴史を持つのである。

世界で初めての商業ラジオ放送は、いくつかの説があるようだが一般には、アメリカ合衆国ペンシルバニア州のKDKA局が先鞭をつけたとされている。1920年のことだ。

本学図書館が所蔵している「初期ラジオ放送文化関係資料集」は、1920年代から50年代にかけての資料を中心に構成されており、ラジオが新しいメディアとして登場した当時の様子を伝えている。ほとんどが絶版となっているとはいえ、それほど古い資料でも高額な資料でもないで、唯一無二の資料と呼べるものはないが、たまたま新しい時代の幕開けに立ち会うことになった人々のわくわくする気持ちを、埃っぽい頁の間に感じ取ることができるはずである。

以下、簡単に内容を紹介しよう。

Golenpaul, Dan. *Information Please!*. New York: Simon and Schuster, 1939. 最近でも、テレビ番組の内容が書籍として出版されることがあるが、これは人気のあったクイズ番組“Information, Please!”で出題された問題を収録したもの。

BBC Yearbook. London: British Broadcasting

Corporation. イギリス BBC 局の年鑑。プログラムだけでなく技術的な内容をも含んでいる。

Cruiger, Paul. *How to Write and Sell Stage and Radio Plays*. Upland: A.D. Freese & Son, 1931. ソープオペラと呼ばれた、主婦を対象とする連続ドラマも人気があった。これはラジオドラマの台本の書き方についての書籍。曰く「この本をじっくり読めば、きっとプロの書き方が分かります!」。

Harmon, Jim. *The Great Radio Comedians*. New York: Doubleday & Company, 1970. コメディは比較的早くからラジオの番組に定着した。この資料には放送を収録した3分間ほどのソノシートがついている。

Bannig, Kendall and L.M. Cockaday, eds. *How to Build Your Radio Receiver*. New York: Popular Radio, 1924. 1980年代のパソコン少年と同じように受け取られていたというラジオ少年、ラジオマニア向けの組み立てガイド。

Education on the Air, Columbus: Ohio State University, 1930. ラジオを利用した通信教育についての論文集。

比較的初期の研究書として、Banning, William P. *Commercial Broadcasting Pioneer*, Cambridge: Harvard University Press, 1946. など。これは主要放送局が成立する過程を扱っている。

なお、ラジオをはじめ音声メディアの社会史についての近年の邦語文献としては、水越伸『メディアの生成』(同文館出版, 1993年)、吉見俊哉『声の資本主義』(講談社, 1995年)、などがある。

(はまお やすひこ 学術資料課)

関西大学広報委員会発行『関西大学通信』第267号(平成10年11月24日発行)掲載の「図書館だより」に発表した文章に補筆のうえ転載。
